

学 会

東京女子医科大学学会 第270回例会

日 時 昭和62年5月22日(金)午後2時半~4時半

会 場 東京女子医科大学弥生記念講堂

吉岡弥生研究奨励金授与式(第26回)

(司会)幹事 橋本 葉子
 挨拶 学会長 吉岡 守正
 選考経過報告 選考委員 野本 照子
 吉岡弥生研究奨励金授与 学長 吉岡 守正
 (消化器内科)日鳥 敬子
 (第2内科)成瀬 清子

前年度受賞者研究発表

(座長)副会長 小幡 裕
 上皮性細胞の分化に関する電顕的観察:外根鞘細胞
 の cell kinetics について (第1解剖)藤澤 敬子
 MRI(核磁気共鳴画像)による心筋疾患の形態およ
 び心筋性状の評価 (放射線科)成松 明子

吉岡弥生記念講演(第3回)

挨拶 副理事長 吉岡 博光
 (座長)学長 吉岡 守正
 講演
 「ドラマ『いのち』の1年間」
 作家 橋田壽賀子

上皮性細胞の分化に関する形態学的観察

—外根鞘の cell kinetics について—
 (第1解剖)藤沢 敬子

上皮性組織の細胞構築や形態分化が、いかにその上皮の存在する環境と機能に密に関連しているかは、小腸の吸収上皮や腺の分泌上皮、移送機能をもつ線毛上皮、尿路の移行上皮などでよく知られている。ほぼすべての上皮には、物をおおうという本来の機能上、共通の基本的な性質がみられる。すなわち、(1)表面(または内腔)を有する。(2)組織や器官を表面からシールするため、細胞は密に接し合い接着複合体とよばれる構造が発達している。さらに膜の凹凸による複雑な嵌合がある。(3)生体に入出入りする物質は必ず上皮を通るため、その方向性に適した分化をとげており、細

胞膜の局所的な分化や細胞内小器官の配置などの構造にも特徴があらわれている。上皮細胞にはこの方向性(極性)が特に顕著である。(4)再生能(すなわち分裂能)が高いことなどである。

一方、毛と内根鞘を構成する上皮性細胞はこの性質をすべて備えるが外根鞘細胞のみは多くの点が異なっている。(1)内腔を失っている。(2)接着複合体の発達がわるい。(3)部位により細胞骨格の方向が異なり多方向の極性を示す。(4)分裂能の発揮される領域が限定され部位によって細胞構築が異なっている。(5)角化(分化)しない。(6)種々のホルモンをはじめ、全身の物質代謝と密接な関係を有し、有害物質の迅速な取り込みと分解に関わる重要な酵素系の存在など細胞生物学的潜在力をにっている。これらの特徴を形態的に明らかにした。そして外根鞘細胞をケラチノサイトの脱分化という視点でとらえると、多方向性の分化能力や代謝における潜在能力、皮脂腺開口部周辺で再びあらわれる角化傾向などが理解しやすい。また、未分化な母基細胞が分化終極に達し毛に成る過程でみせる多様な形態変化は、外根鞘細胞の極性のベクトルと、これに接するそれより中心部の細胞のベクトルとの力学的均衡に大きく依存していることを示していると考えられる。

MRI(核磁気共鳴画像)による心筋疾患の形態および心筋性状の評価 (放射線科)成松 明子

心筋疾患の形態の評価に関する非侵襲的検査法として心エコー法や²⁰¹Tl心筋シンチグラフィがあるが、病変の性状判定に関しては不可能といえる。心電図同期MRIでは流血と血管壁、心筋とを明瞭に区別可能であり、左室の長軸方向や短軸方向断層等任意の断層像が同一体位で撮像可能なことから、心筋疾患の任意方向の形態評価が容易にできる。また、病変部の tissue characterization の可能性も期待されている。今回、1)心筋症22例について心電図同期MRIを²⁰¹Tl心筋シンチグラフィと比較検討し、さらにコントロール5